

| 番号 | コード | | | | | | 名称 | 所在地 | 年代 | | 由緒由来の概要 | 資料名 |
|-----|--------|-------|--------|------|---------|----------------------|-----------|----------|------|---|--|-----|
| | 町名 | 有形・無形 | 現存・非現存 | 大分類 | 中分類 | 和暦 | | | 西暦 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 317 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 1 産業 | 7 道路 | 猿留山道 | 猿留～幌泉 | 寛政11 | 1799 | ロシアやイギリス等の外国船が北海道近海を往来するようになり、北方警備と陸上交通の利便を図るために幕府が開発に着手した。大河内善兵衛が幕命を受け、最上徳内らが工事を担当して猿留～幌泉間を開削した行程28kmの道路(旧道、通称重蔵山道)で、明治中期に庶野を通る新道(通称猿留山道)が開削される。徳内は丁寧な工事に努めたが、それに対して幕府が財政難などを理由に反発して徳内を解雇し、急造した。その結果、ルベシベツ、襟似山道とともに粗悪で難儀なものとなり、悪天候以外はほとんど利用されなかったと言われる。現在、約8kmが当時の様子を残していることが確認されている。 | 史跡と名勝、改訂襟似町史、襟似町教育委員会資料、猿留山道の歴史と現状について、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編、北海道の山道等について | |
| 318 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 1 産業 | 9 水運・海運 | 襟裳岬灯台 | えりも岬 | 明治22(創基) | 1889 | 襟裳岬は沖合いまで無数の暗礁が散在し、春夏には濃霧に閉ざされ、魔の海と恐れられており、明治15(1882)の英国船メリータサム号の難破により英国政府の要請などもあり設置された。白円形のコンクリート造りで、使用されるレンズはドイツ製の優秀なもので、当時の価格で一万数千円であったといわれる。当時本道唯一の一等灯台であった。明治27(1894)には霧笛信号設備を設置しているが、第2次大戦によって、灯台に近接する燃料庫が爆発して、灯台は見る影もなく、優秀なレンズも破壊されたといわれる。 | 史跡と名勝、えりも町史、浦河町史上巻・同下巻、日高今昔叢誌、日高路を行く | |
| 319 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 1 産業 | 9 水運・海運 | 幌泉灯台 | 幌泉 | 明治24(創基) | 1891 | 現在の本町にあった灯台山の上に建てられた白四角形のコンクリート造りの灯台で、町の開発が進むにつれて灯台山が切り崩されたことにより昭和53(1978)に撤去され、現在の灯台公園に移設された。 | 浦河町史下巻、えりも町史、えりも町120年記念 あの年、あの日あとのとき | |
| 320 | 9 えりも町 | 1 有形 | 2 非現存 | 1 産業 | 9 水運・海運 | 沖ノ口役所 | — | 明治2 | 1869 | 明治時代に入り、場所請負制度が廃されて、えりも町が開拓史の御親料地となった際に設置されたもので、航海の取締りを兼ね、主として徴税の任に当たった。明治3(1870)には海官所、海関所と解消され、明治8(1875)には船政所と改正される。 | えりも町史 | |
| 321 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 油駒稲荷神社 | 東洋 | 弘化3(創基) | 1846 | 幌泉場所支配人杉浦嘉七が創立したといわれる。保食神を祭る。 | えりも町史 | |
| 322 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 歌別稲荷神社 | 歌別 | 安政6(創基) | 1859 | 幌泉場所杉浦嘉七が創立したといわれる。昭和20(1945)に社殿を改築した。保食神を祭る。 | えりも町史 | |
| 323 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 歌露稲荷神社 | 東洋 | 弘化3(創基) | 1846 | 幌泉場所杉浦嘉七が創立したといわれる。保食神を祭る。 | えりも町史 | |
| 324 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 襟裳神社 | えりも岬 | 文化11(創基) | 1814 | 島屋佐兵衛が漁場請負人になるとき岬の岩の上に建立し、保食神を祭ったのが始まり。明治8(1875)には、立地条件が悪く祭祀に不便であるため別の場所に移転したが、村内に火災、悪疫が流行したので、神慮によるものと明治25.26(1892、1893)ごろに現在地に移転された。 | えりも町史、えりも岬のあしあと | |
| 325 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 法光寺末寺 興国山迦葉院(かしょういん) | 小越村(えりも岬) | 明治21(創基) | 1888 | 曹洞宗でも日高最古のものといわれ、文久元(1861)に曹洞宗説教所を設け道仙和尚が布教を始めたのが始まり。道仙和尚の死後何人かの僧が従事したが、なにごと不便なため3年か5年で去り、明治元(1868)に岩手県江刺郡田原村石原の人藤原一天和尚が説教所に住んだといわれ、明治21(1888)に一寺を建立し寺号を迦葉院と定め、明治22(1889)に北海道庁に申請し許可を得たもの。明治30(1897)に境内地の寄進を得て、明治35(1902)に本堂を改築し、大正11(1922)には法光寺裏山の寄進を受け、電王堂を改築した。襟裳十一面観音堂を建立し、襟裳さんとして信仰を集め、現在の襟裳神社の御神体となっている。昭和11(1936)に本堂を新築し、昭和11(1936)には庫裏、納屋などを新築した。 | えりも町史、曹洞宗佛国山法光寺史 | |
| 326 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 光明寺 | 本町 | 明治4(創基) | 1871 | 真宗本願寺派、仮説教所を設けたのが始まり。明治27(1894)に寺院が完成し、昭和44(1969)に改築された。 | えりも町史 | |
| 327 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 庶野稲荷神社 | 庶野 | 明治7(創基) | 1874 | 保食神を祀る。 | えりも町史 | |
| 328 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 住吉神社 | 本町 | 文化11(創基) | 1814 | 嶋屋佐兵衛が幌泉場所請負人に命ぜられたとき、漁場の安全を祈るため住吉山に社殿を建立したのが始まり。明治31(1898)に現在地に本殿拝殿を移転したが、大正9(1920)に本殿内部が荒らされたため大正10(1921)に整備し、大正15(1926)に、松大鳥居が奉納され本殿を増築、昭和12(1937)に社殿を改築した。 | えりも町史 | |
| 329 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 善生寺 | 本町 | 明治19(創基) | 1886 | 通称沢町に説教所を設けたのが始まり。明治22(1889)に公称した。昭和10(1935)に現在の本堂を建立し、昭和44(1969)に、庫裏、鳳竜殿を新築した。 | えりも町史 | |
| 330 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 近浦稲荷神社 | 近浦 | 天保13(創基) | 1842 | 幌泉場所支配人杉浦嘉七が創立したといわれる。 | えりも町史 | |
| 331 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 能入寺 | 本町 | 安政5(創基) | 1858 | 真宗大谷派本願寺末寺、徳善が函館浄玄寺境内に役寺能入坊を設置し、明治11(1878)に本山教用止宿所と称して移転し、明治12(1879)に能入寺と公称した。大正5(1910)に、台風のため再建し、昭和41(1966)に老朽のため改築した。 | えりも町史 | |
| 332 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 笛舞稲荷神社 | 笛舞 | 天保13(創基) | 1842 | 幌泉場所支配人杉浦嘉七が創設。保食神を祭る。 | えりも町史 | |
| 333 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 法光寺 | 本町 | 明治13 | 1880 | 曹洞宗小樽正法末寺、長浜恵流が設けた説教所が始まりで、明治15(1882)に寺院を建立し、明治17(1884)に公称した。明治21(1888)には、海上安全祈念のために信者の寄付により、竜神(威如王)を本尊とする金毘羅堂を建立し、また、えりも岬の興国山迦葉院を法光寺末寺とした。明治23(1890)には龍天護法善神を本尊とする電王堂を信者の寄付により建立。明治31(1898)に寺院を改築したが、昭和14(1939)に火災により全焼し、昭和16(1941)に復興、昭和41(1966)に位牌堂を建立した。 | えりも町史、石碑・石仏ウォッチング資料 | |
| 334 | 9 えりも町 | 1 有形 | 1 現存 | 2 宗教 | 10 寺社等 | 目黒稲荷神社 | 目黒 | 天保13(創基) | 1842 | 幌泉場所支配人杉浦嘉七が創立したといわれる。保食神を祭る。 | えりも町史 | |

| 番号 | コード | | | | | | 名称 | 所在地 | 年代 | | 由緒由来の概要 | 資料名 | | | | |
|-----|-----|-------|--------|-----|-----|-----|----|-----|----|--------|--------------|-------------|--------|---------|--|---|
| | 町名 | 有形・無形 | 現存・非現存 | 大分類 | 中分類 | 和暦 | | | 西暦 | | | | | | | |
| 335 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 當世武(とせつふ)大明神 | 鹿野トセツ | 慶應2 | 1866 | 幌泉場所請負人杉浦嘉七が願主、トセツの東側が小さな湾になっており、強風が吹いた際、風待ちをできる場所であることから、江戸時代に帆船の関係者が航海の安全を祈願して建立したのではないかとされる。この石碑には、観音開きの石戸がついていたが壊れたので、現在は周りに敷かれている。 | 生涯学習広報うおい平成7年8月号、えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 336 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 一石一字塔 | 苫別(百人浜) | 文化3 | 1806 | 百人浜という名の起りは、「昔、北海道警備に当たった南部藩の御用船が東蝦夷地に向かう途中、大時化に遭い、遭難し、乗組員100人余りがようやく九死に一生を得てこの浜にたどりついたが、それもむしく飢えと寒さに苦しみ、ついに屍体となって砂中に埋まった。」とのいわれにより、その弔いとして様似等・院の初代住職秀暁が妙法華経無量品第16巻の全文字を1石に1字ずつを書いたものを村人たちが埋め、その上に塔を建てたのが「一石一字塔」といわれる。しかし、いくつかの伝承記録から見た場合、百人浜の由来は、寛文9(1669)シャクシャインの戦いのアイヌ惨殺説やその際に金堀100人余りを処刑したことによるものなど諸説あり、幕末期に船乗りの遭難やアイヌ民族の合戦などの説に裏付けも考えられる。「一石一字塔」は、厳しい立地条件のため倒壊を繰り返し、大正12(1923)に地元青年団により同じ百人浜の中で移設され現在にいたるが、埋納遺構や礎石経等の遺物は確認されていない。 | 史跡と名勝、改訂様似町史、えりも町郷土資料館石碑・石仏ウォッチング資料、礎石経の世界、季刊日高の伝説豆、日高昔叢誌、えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 337 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 不動明王 | 本町(法光寺) | 文化10 | 1813 | 施主が高田屋となっており、文化9(1812)に国後島で捕らえられカムチャッカに移送された高田屋嘉兵衛と水主たちの無事帰国を祈願したものでないかとされる。 | えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 338 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 鮫供養塔 | 本町(法光寺) | 大正10 | 1921 | カドザメ、モウカザメなど漁を行っていた漁師達が、鮫供養とともに鮫の豊漁を祈願するため鮫釣一同として建立された。鮫鱈などは中国に貴重な食材品として輸出し、鮫肉は塩漬にして函館方面に販売されていた。碑は自然石で高さ1.5m、台石も自然石30cmでちょうどカドザメに似ている。 | えりも町郷土資料館石碑・石仏ウォッチング資料、曹洞宗佛国山法光寺史、生涯学習広報うおい平成8年3月号 |
| 339 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 三十三観音 | 本町(法光寺) | 明治21 | 1888 | 観世音像が衆生の願いに対応して三十三身に姿を変えて法を説かれるということから、三十三観音巡礼の風習が生まれた。法光寺前の山、通称観音山に33体の観音像を祀ったもので、33体の最後は法光寺境内本堂前庭に安置される。毎年花まつりの日に観音山開きが行われ信者の参詣が多い。様似町観音山にも33体の観音像がある。 | えりも町郷土資料館石碑・石仏ウォッチング資料、曹洞宗佛国山法光寺史、えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 340 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 豊国丸殉難者追悼碑 | 襟裳岬 | 昭和11 | 1936 | 昭和4(1929)、乗員209人を乗せた豊国丸が函館を出港し、襟裳岬沖で座礁沈没し、78名が死亡行方不明となり、その追悼を目的に設置されたが、平成3(1991)の暴風雪で倒壊し、えりも町が修復。 | 豊国丸殉難者追悼式資料 |
| 341 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 能入寺の阿弥陀如来木仏 | 本町 | 延宝3 | 1675 | 能入寺の本尊、恵心僧都作といわれる。(時代が合わないとの指摘、情報収集中) | えりも町史 |
| 342 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 妙見様と石祠 | 目黒(様似山道沼見岬) | 安政6 | 1859 | 寛政11(1799)に幕府による国家プロジェクトとして開設された様似山道の途中にある沼見岬に置かれているもので、幌泉場所請負人杉浦嘉七が願主となっている。 | えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 343 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 2 | 宗教 | 11 | 碑・像等 | 馬頭散世音菩薩 | 目黒(様似山道沼見岬) | 文久元 | 1861 | 寛政11(1799)に幕府による国家プロジェクトとして開設された様似山道の途中にある沼見岬に置かれているもので、幌泉場所請負人杉浦嘉七が願主となっている。 | えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏 |
| 344 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 12 | 史跡等 | 油駒のチャン跡 | 南東洋と油駒の中間 | — | — | 丘の先端に縦28mと横56mの長方形に溝が掘られている。縄文晩期から続縄文期の石器、土器などが出土しているが、チャン形成時期とは関連はないと考えられる。明治の開拓初期以前からすでに遺構があったといわれる。 | えりも町史 |
| 345 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 12 | 史跡等 | 東洋A、B、C、D遺跡 | オシヨロスケ川の各枝川 | — | — | 米軍基地建設工事の際、多数の遺物が発見される。その後、航空自衛隊基地となり、内部の遺跡はほとんど壊滅。外部の遺跡は草地改良事業工事で大半が破壊される。A地点は、上ノ沢水源付近にあり、竪穴住居跡群で、円筒上層式土器、野幌式土器、石錐、石小刀などが発見されている。B地点は、下ノ沢に注ぐ支流の水源付近、竪穴が群在し、円筒上層式土器、石器類などが出土。 | えりも町史 |
| 346 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 15 | 人物 | 高田屋金兵衛 | — | 文政9～不明 | 1826～不明 | 択捉航路を開いた高田屋嘉兵衛の弟。幌泉場所の請負人となり手腕を振るうが、天保2(1831)様似沖合いにて雇船がロシア船に襲われ酒を奪い取られたことにより密貿易の疑いで江戸に召還され、天保4(1833)江戸追放取り潰しとなる。 | えりも町史、開基100年記念町勢写真集えりも |
| 347 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 2 | 非現存 | 1 | 産業 | 15 | 人物 | 福嶋屋(杉浦)嘉七 | — | 不明 | 不明 | 函館の回漕業者であり、十勝・幌泉両場所の漁場経営をしていた福嶋屋の二代目忠三郎のこと。福嶋屋は、天保9(1838)から幌泉場所を請け負い、えりも町内各地に神社や石碑を建立した。 | えりも町ふるさと再発見シリーズ2 石碑石仏、えりも町史 |
| 348 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 16 | 民話・伝説等 | 意地悪爺さん | 襟裳岬 | — | — | 昔、襟裳の崎に根性の悪い年寄りが住んでおり、ウイラム(お目見え)のためにそこを通るたびに必ずイレンカウエンベ(嫌がらせ)をした。それで十勝へ行くときは、オシヨロスケに船を揚げて積荷とともに陸を山越えて小越(襟裳岬)に行ったので、その付近にチブニンバウシ(船を引きずるところ)といった土を引っばったような沢がある。 | えりも町史 |
| 349 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 16 | 民話・伝説等 | 襟裳大菩薩の由来 | 襟裳岬 | — | — | エリモはアイヌ語でネズミと訳すので「なめずみ岬」というが、昔、襟裳岬一帯に白鼠が住んでいたためといわれる。天明(1781～)年間、舟路が開けたくさんの内地人が渡航し漁業に従事するようになった頃、岬に住んでいたエリモ＝ランドというアイヌの人が暗礁地帯を老いた白ネズミにまたがり飛鳥のように涉破する十一面大菩薩の姿をみて一意識察したところ、その後不思議なことがあった。ある日、家の近くの暗礁の上に漂着した尊像を御堂を設けて奉祀し、以来その岩を神威岩といって聖所とした。子孫のエリモローが15歳の時、ある商船が沖合いで濃霧と時化にあい方策尽きて襟裳岬に祈願したところ、十一面菩薩が現れ程なく海が穏やかになり難破を逃れたといわれる。文化11(1814)になって渡島の島屋佐兵衛が襟裳神社を建立し、幕末時代により明治の初年にかけて襟裳の海を航行する船が襟裳様に合掌し、船中の安全などを祈願したといわれる。 | えりも町史、日高路を行く |
| 350 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 16 | 民話・伝説等 | 豊似湖の神秘 | 目黒 | — | — | この湖は何千年も前からあるといわれ、寛政10(1798)に近藤重蔵が千島から帰る途中、幌泉から広尾の間に道を開こうとし探検した際、暴風のため部下一人が断崖から馬もろとも転落してこの湖付近で惨死し、今でも馬蹄の跡を残している石があるといわれる。また、湖辺にある塔はその冥福を祈るためのもので、慶応元(1865)には、福島屋の支配人敏蔵が美津山大神を合祀したといわれる。その霊験によりここに参詣する人が次第に多くなり、湖水を飲み体を清めその水を持ち帰ると飲み干すと長寿を保ち精神を潤してくれるという。さらに、ここに参詣した帰りは必ず雨か曇りになるので合羽を要しななければならないといわれる。また、海の干満に合わせて湖水も増減するといわれている。 | えりも町史、日高路を行く |

| 番号 | コード | | | | | | 名称 | 所在地 | 年代 | | 由緒由来の概要 | 資料名 | | | | |
|-----|-----|-------|--------|-----|-----|-----|----|-----|----|--------|------------|------------------------|------------|------|--|---|
| | 町名 | 有形・無形 | 現存・非現存 | 大分類 | 中分類 | 和暦 | | | 西暦 | | | | | | | |
| 351 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 16 | 民話・伝説等 | レプンカムイ | 幌泉 | — | — | むかし、ニカンベツに美しい娘がおり、レプンカムイ(沖の神、シャチ)の元へ嫁入りしたら、レプンカムイは一年に一回ずつ鯨を浜に揚げてくれるので、人へは豊かな生活をする事ができたが、その後、あまりカムイノミ(神に酒を捧げて祈ること)をしなくなったので、だんだん鯨は揚がらなくなった。 | えりも町史 |
| 352 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 17 | 祭事・芸能 | 襟裳神楽 | — | 大正? | 大正? | 開拓の昔から航海の安全と大漁を祈願して襟裳神社に奉納されてきた神楽。笛、太鼓、拍子鐘にあわせて、ささふりという、ひょっとこと3頭の獅子が舞い踊る。現在は、親神楽と少年神楽が演じられている。昭和45(1970)に襟裳神楽保存会が発足した。 | えりも岬のあしあと、日高支庁HP |
| 353 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 1 | 現存 | 5 | 伝統 | 17 | 祭事・芸能 | えりも駒踊り | — | 不明 | 不明 | 開拓時代、南部藩士により導入されたもの。もともと春に放牧された若駒を秋に取り押さえる様子を舞踏化したもの。 | 日高支庁HP |
| 354 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 2 | 非現存 | 1 | 産業 | 18 | 工芸・美術 | 蝦夷一覽 | 新浜 (郷土資料館 ほろいずみ) | 江戸時代 末期 | 不明 | アイヌ民族の風俗画で、江戸時代末期、特に安政期から明治初期にかけて作成されたと考えられる。当時の代表的な絵師村上島之丞、小玉貞良の作品から転写したものと考えられる。昭和59(1984)、えりも町の有形文化財に指定される。 | 新諸国物語がまち再発見北海道212文化編 |
| 355 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 4 | 教育 | 99 | その他 | 郷土資料館ほろいずみ | 新浜 | 平成4 | 1992 | えりも町の自然、文化、歴史を紹介するとともに、調査研究し、郷土学習をとおして楽しく遊ぶための施設。えりも町水産の館に併設され、北海道の生い立ち、えりも町の自然と歴史、アイヌ風俗画「蝦夷一覽」、郷土芸能(駒おどり、岬神楽)などの資料を展示している。「幌泉(ほろいずみ)」は改称前の町名。 | 日高支庁HP、ほろいずみ、胆振・日高地区の博物館郷土資料館めぐり、北海道新博物館ガイド |
| 356 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 1 | 現存 | 4 | 教育 | 99 | その他 | えりも町水産の館 | 新浜 | 昭和55 | 1980 | 昆布産出量日本一であるえりも町の漁業について、昆布を中心に展示をしている。北海道と世界の昆布類の標本、昆布の生態、昆布漁業、流通など紹介している。 | 日高支庁HP、ほろいずみ、胆振・日高地区の博物館郷土資料館めぐり、北海道新博物館ガイド |
| 358 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 2 | 非現存 | 99 | その他 | 99 | その他 | えりも岬のマンモス | えりも岬 | — | — | 昭和16(1941)、小越の俗称「熊の沢」下流海浜近くで砂金掘り作業中に、また、襟裳小中学校100メートルの俗称「北の沢」約200m上手の沢底から各1個が発見された。 フェルム氷期の礫層の中から発見されたが、このうち1個は昭和39(1964)の襟裳小中学校の火災により焼失。 熊の沢で発見されたものは国立科学博物館に展示保存されており、それぞれの複製品が郷土資料館ほろいずみに展示されている。 | えりも町史、えりも岬のあしあと |
| 357 | 9 | えりも町 | 1 | 有形 | 2 | 非現存 | 1 | 産業 | 99 | その他 | 幌泉会所 | 歌別 | 寛政11 | 1799 | 寛政11(1799)に東蝦夷地が幕府の直轄なり、油駒場所が幌泉場所と様似場所に二分された際、以前からあった運上屋の名称を改めて会所とし、文化6(1809)の文献では、会所の建物の他、旅宿、板蔵、昆布取り小屋、厩舎、番船などがあったと記録されている。 | えりも町史 |
| 359 | 9 | えりも町 | 2 | 無形 | 2 | 非現存 | 1 | 産業 | 99 | その他 | 幌泉場所 | 幌泉郡一帯 | 寛政11 | 1799 | 場所所制度とは、蝦夷地では米作がなく石高制をもって家臣の給料を定めることができなかつたので、松前藩が交易その他による収益を見込んで各地を場所と区分し、これを知行として家臣に配分する方法で、当初「オムシャ」といわれる方法でアイヌの人々と交易を行っていたが、その後、場所請負制がとられ、請負人や支配人によって運営されるようになったが、アイヌの人々を酷使し、また、不当な交易をすることが多かつたといわれる。 もともと、様似・幌泉両郡は油駒場所として松前藩士蠣崎藏人の知行地となっており、商場が置かれコンブやフノリなどの交易が行われていたが、開設された時期は不明で、少なくとも慶長年間中存在し、文献で現れるのは寛文9(1669)に起こったシャクシャインの戦いの調査のため、津軽藩から派遣された隠密によって書かれた「津軽一統志・巻十」に見られるのが最初となっている。 天明6(1786)には、松前の薬屋太兵衛が請け負い、寛政3(1791)には浜屋久七が請け負っていた。 寛政11(1799)に一時幕府が直接管理する「直別き」が行われ、油駒場所は様似場所と幌泉場所に二分された。 文化9(1812)には再び請負制度がとられ、嶋屋佐次兵衛が7年間請け負ったあと、文政2(1819)からは高田屋金兵衛が請け負ったが、天保4(1833)に密貿易の疑いをかけられて取り潰され、請負も罷免され、林七郎兵衛の請負に移った。 天保8(1837)から弘化元(1844)まで7年間は福嶋屋清兵衛出店支配人杉浦嘉七(後の福嶋屋嘉七)によって請け負われた。 明治2(1869)場所請負制を廃し、開拓使の親料地として海官所(海関所)が設置され役人を置いた。 | えりも町史、開基100年記念町勢写真集えりも、ふるさと探究下 |